

日造協ニュース

2023.6月 通巻第591号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

2面【学会の目・眼・芽】ランドスケープインシティブ：新しい時間と場をつくる造園業～指定管理者、Park-PPFでの可能性～（公社）日本造園学会理事 東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授 阿部 伸太
「仙台フェア」開催の仙台に120人「花と緑のつどい」を開催
「仙台フェア」見学会も開催 多彩な展示に学ぶ
総支部長・支部長合同会議を開催 令和5年度事業の実施状況などを説明

3面 資格制度を創設「緑地樹木剪定士」2023年度（夏期）7/1～28まで申込受付

4面【ふるさと自慢】「歴史」と「食」と「ジオパーク」の伊豆
静岡県支部 庄司 千咲（株愛樹園）
【緑滴】シュートレン作り
奈良県支部 大西 知栄（株中造園）



理事会の様子

日造協は6月1日、令和5年度第1回通常理事会を仙台市青葉区の江陽グランドホテルで開催し、令和4年度事業報告及び決算報告、「緑地樹木剪定士」資格制度創設など7議案を審議・承認した。

通常理事会は、冒頭、和田会長が、「理事、監事の皆様には、大変お忙しいところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。私ども造園建設業界を取り巻く経営環境は、ロシアのウクライナへの侵攻など国際情勢が不安定化する中、資材の高騰、働き方改革への取組、担い手の育成・確保など、課題も山積しているところ。また、造園業界の技術力アップを図るための資格制度の更なる充実、2027年横浜で開催される国際園芸博覧会への協力など多くの課題に取り組んでいく必要があります。本日は、令和4年度の事業報告、決算及び通常総会の招集等につきまして、ご審議をいただくこととしております。ご審議の程、よろしくお願ひ申し上げます」とあいさつ。

その後①令和4年度事業報告及び決算について②令和5年度通常総会の招集について③会員の入会承認について④「緑地樹木剪定士」資格制度の創設について⑤登録基幹技能者講習実施機関の更新について⑥公共工事に関する調査及び



理事会の冒頭、あいさつする和田新也会長
設計等の品質確保に資する技術者資格登録申請について（街路樹剪定士・植栽基盤診断士）⑦顧問・相談役の就任についての7議案を審議・承認した。

理事会では、そのほか令和5年度通常総会議案として、役員補欠選任について、報告事項として、会長及び業務執行理事の職務執行状況、令和5年度造園建設功労賞等の表彰について報告した。

令和5年度 全国安全週間のお知らせ

本週間7月1日～7日 準備期間6月1日～30日

全国安全週間は、労働災害防止活動の推進を図り、安全に対する意識と職場の安全活動のより一層の向上に取り組む週間です。昭和3年に第1回が実施されて以来、一度も中断することなく続けられ、本年度で第96回を迎えます。

この間、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的には減少していますが、令和4年の労働災害の死亡災害は前年を下回る見込みであるものの、休業4日以上死傷災害は前年を上回る見込みであり、近年の増加傾向に歯止めがかからない状況となっています。

特に、転倒や腰痛といった労働者の作

業行動に起因する死傷災害、墜落・転落などの死亡災害が依然として後を絶たない状況にあります。

また、労働災害を少しでも減らし、労働者一人一人が安全に働くことができる職場環境を築くためには、本年3月に策定された第14次労働災害防止計画に基づく施策を着実に推進するための不断の努力が必要であり、特に初年度となる令和5年度においては、労使一丸となった取組が求められます。

以上を踏まえ、さらなる労働災害の減少を図る観点から、令和5年度の全国安全週間は、「高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場」をスローガンに全国安全週間及び準備期間中に次の事項

樹林 (一社)日本造園建設業協会理事 花豊造園(株)代表取締役社長 山田 拓広 2027年横浜国際園芸博覧会開催へ向けて



2027年横浜国際園芸博覧会”GREEN×EXPO 2027”の開催まであと4年、1400日前に迫ってきた。

昨年9月の国際園芸家協会（AIPH）総会で承認され、11月のパリで博覧会国際事務局（BIE）総会にて国際条約に基づき認定された。期間は2027年3月19日～2027年9月26日の6ヶ月、場所は横浜市北西部の旧米軍上瀬谷通信施設跡地、博覧会区域は約100haにわたる。

造園・園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を開催目的として、メインテーマは「幸せを創る明日の風景」。咲き誇る花々や濃い緑、農の収穫と食の豊かさ、人々の多彩な交流など、横浜・上瀬谷にしかない時間・空間・価値を世界と共有するとされている。

都市緑化・グリーンインフラの整備、花卉産業及び文化の推進、観光立国・地方創生推進の観点からも開催は重要な役割を担っている。

参加者数は1500万人を見込んでおり、新型コロナウイルスの対応が個人判断主体となり人の往来が以前同様の活発さに戻りつつある中、日本国内はもちろん、海外からも多くの来場者が訪れる土台は整ってきている。

国際園芸博覧会は、当初の欧州での園芸の振興から開催地も世界各地へ、近年はアジアでも多く開催されるようになり、博覧会を契機としてまちづくりや社会課題への取り組みがなされるなど、その果たす役割は拡大してきている。

以前は花卉園芸振興に重点が置かれていたように見受けられるが、近年は地域から地球規模への環境問題の対策として、緑を活かした都市づくりを進めるグリーンシティ活動にも力が入ってきている。

2015年に国連で採択されたSDGs「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、日本はじめ世界各国でも啓発推進が進められている。

博覧会でのシンポジウム等イベント開催、各国での取り組み事例の紹介や、それら情報を皆さんが持ち帰って発信されることで、各々の地域での施策遂行に役立てられる。

今回の横浜での開催は、これまでのさまざまな日本でのグリーンインフラ事例なども紹介発信する機会となる。

防災や災害復旧についても各国関係者が興味を持たれる課題で、日本の先進的な技術のアピールになるだろう。

今年の10月には横浜と同じA1規模であるドーハ園芸博覧会が開催される。

2025年の大阪万博、そして2027年の横浜園芸博覧会の開催、それらに向けたこれからの各地での緑化フェアなどが、市民一人ひとりが改めて取り組む重要な契機となるのではないだろうか。未来を見通した今後の社会経済のあり方について、博覧会開催を通して効果的に広域的に実践が進められればと願う。

これからも関係各機関と連携して横浜国際園芸博覧会の円滑な開催実現に向けて取り組んでいきたい。

好事例を情報交換するワークショップ等の開催

- ⑤安全衛生に係る表彰
- ⑥「国民安全の日」（7/1）の行事に協力
- ⑦事業場の実施事項について指導援助
- ⑧その他「全国安全週間」にふさわしい行事等を行う。

この機会に職場における労働災害防止活動の大切さを再確認し、積極的に安全活動に取り組みましょう。

令和5年度 通常総会

講演会・50周年記念交流会
6月23日(金) 14:30～
ホテルグランドアーク半蔵門
東京都千代田区隼町1-1

☎03-3288-0111
会員の皆様のご参加をお願いいたします。

中央労働災害防止協会が発行している「全国安全週間リーフレット」

- を実施することとされています。
- ①安全広報資料等を作成、配布
- ②様々な広報媒体を通じた広報
- ③安全パトロール等の実施
- ④安全講習会や事業者間での意見交換、

「仙台フェア」開催の仙台に120人 「花と緑のつどい」を開催

日造協は6月1日、仙台市青葉区の江陽グランドホテルで「花と緑のつどい」を開催し、会場には120人が参加し、交流を図った。

『花と緑のつどい』は、ミュージシャンでラジオDJの中村マサトシさんを司会に、古積昇東北総支部長の開会の辞に次いで、主催者を代表して古積昇東北総支部長、和田新也会長があいさつ。ご来賓の方々からは、全国都市緑化仙台フェア実行委員長でもある郡和子仙台市長、宮国永明国土交通省東北地方整備局副局長、



和田新也会長 今野久仁正副総支部長 舛谷成幸宮城県土木部副部長のお三方からご祝辞をいただき、多数お集まりいただいた来賓の方々をご紹介の後、祝電披露を行った。

乾杯は遠藤隼人宮城県議会（議長代理）建設企業委員長が発声、懇談となり、途中、佐々木亮都市緑化仙台フェア実行委員会事務局より仙台フェアのご紹介をいただき、未来の杜せんだい2023マスコットキャラクター『フォレピ』も登場した。

また、仙台・青葉



すずめ踊りの様子



郡和子仙台市長 宮国永明副局長 舛谷成幸副部長 遠藤隼人委員長

まつりでも催される『仙台すずめ踊り』を七郷すずめ連の方々が演舞され、会場には紙扇子が配布され、会場の皆さんに踊りの説明も行われた。

つどいは久しぶりの対面交流の場ということもあり大いに賑わい、今野久仁正東北総支部副総支部長の閉会のことばで、盛況うちに閉会となった。



佐々木亮仙台フェア事務局長と2023マスコットキャラクター「フォレピ」

「仙台フェア」見学会も開催 多彩な展示に学ぶ

6月2日には全国都市緑化仙台フェア会場の見学会を実施し、会員35名が参加。あいにくの雨の中、青葉山公園追廻地区会場の大花壇「はなばた飾り」をは

じめ、出展花壇・庭園などを見学、多彩な展示に学んだ。

また、仙台の誇る街路樹を車上から眺め、仙台城址からメイン会場を眺望した。



参加者で集合写真



日造協主催「全国造園デザインコンクール」緑化フェア「みどりの広場」プラン賞受賞：木内幸智さん（滋賀県立湖南農業高等学校）の作品も宮城県支部会員により作庭された

総支部長・支部長合同会議を開催 令和5年度事業の実施状況などを説明

日造協は6月1日、総支部長・支部長合同会議を仙台市青葉区の江陽グランドホテルで開催し、令和5年度事業の実施について、総支部・支部の報告等をはじめ、2027年国際園芸博覧会、第41回全国都市緑化かわさきフェアの紹介などを行った。

総支部長・支部長合同会議は、和田新也会長のあいさつの後、令和5年度事業の実施について、各委員会から説明が行われた。

●総務委員会関連は①令和5年度、総支部・支部活動費助成及び会員拡大プロジェクト推進活動助成申請について、●技術委員会関連は②会員のための技術情報の共有（造園デジタル図書館の設置）について、●事業委員会関連は③今年度の要望提言活動について、④日造協会員の求人情報取りまとめサイト設置と登録のご案内について、●資格制度委員会関連は⑤「緑地樹木剪定士」資格制度創設

について、●造園領域発展戦略委員会関連は⑥造園建設業の紹介動画について、⑦日造協の入会案内と入会説明会について、⑧「出前講座」について、●国際委員会関連は⑨国際委員会関連報告について、最後に事務局から⑩インボイス制度について、⑪各種表彰の推薦基準について説明を行った。

会議はその後、総支部・支部からの報告等、意見交換した後に、2027年国際園芸博覧会について、第41回全国都市緑化かわさきフェアの紹介等が行われた。

学会の目・眼・芽 第134回

ランドスケープイニシアティブ：新しい時間と場をつくる造園業～指定管理者、Park-PFIでの可能性～

（公社）日本造園学会理事 東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授 阿部 伸太

これは、全くの主観ではありますが、ただ、私もそれなりにさまざまな自治体の指定管理の委員に携わらせていただき、なんともはがゆい思いのひとつに、造園建設の業界がこの分野をリードしていけば、今以上に素敵な時間を過ごす場を提供できる「はずである（ここが主観であるが）」と感じる。

もちろん、マーケティングや経営的判断は必要だとは思いますが、それにしてももう少しチャレンジがあれば勝てると思ひあえて書かせていただくことにした。



まず悔しいのは、特に提案書のまとめ方や自主事業の魅力が、他の業界がコア企業になっている場合に比べ、見劣りすること。

ビジュアルプレゼンテーションや、プログラムの豊富さ魅力がもっとあってもと感ずることが多々。自主事業等、ある意味稼ぐことができる仕組みにもかかわらず、自動販売機を置く程度を多く見受けられる。確かに「イベント」となると、その準備や運営は労力がかかるが、そうでなく日常的に稼げる提案があるように思う。

樹木の剪定により、心地の良い林床

を創出する技術は間違いない造園施工業の方々。であれば、例えば樹木に覆われた天蓋空間に、キャンプのような背もたれ付きの折り畳みチェアを貸し出しとコーヒー＆クロワッサンセットで休日の朝食を讀書をしながら、または、WiFiでワークをしながらの時間を過ごすなどはどうなのでしょう。

白馬村にあるスノーピークのショップに併設されたスターバックスは、平日でも早朝からオープン。それでも山を望むテラスには、特に海外の方が、パソコンをいじりながらコーヒーを愉しんでいる。



Park-PFIもいくつか仕事を作りましたが、造園界が（設計業も）あまり乗ってこない。コア企業としてエントリーしてくるのは、不動産やハウスメー

カー、飲食系、指定管理もそうだが、清掃や警備系などは精力的。魅力的な公園のランドスケープ的ポテンシャルを活かした場づくりと時間の提供などは、まさに「園」を「造」る造園家がなすべき仕事。運動施設も施設そのもので稼ぐ一方で、日常的に楽しむことや、付加価値をつけた使い方がある。

日本ハムのボールパークはどうなるか見極めたいところだが、あそこまで大掛かりではなくとも、プール「サイド」のデザインとコンテンツで客層、時間、天候の課題を解決するという提案があっても良いのでは。確かに、飲食やスポーツ施設の運営ノウハウは持っていなかったとしても、そうした企業をこちらから巻き込んでいくコミュニケーション力はあるはずだと信じているし、期待したい。

資格制度を創設 「緑地樹木剪定士」

2023年度（夏期）：7月1日～7月28日まで申込受付

日造協が創設した資格制度「緑地樹木剪定士」の今年度の開催について案内する。

「緑地樹木剪定士」とは

都市公園等の緑地の樹木は、老朽化や不適切な管理により、枯枝の落下や倒木が危惧されるなど、管理上の新たな課題が顕在化している。近年は、樹木の良好な育成や安全対策の実施を通じて、公園や緑地の機能の保全・確保・向上が求められている。

また、街路樹を管理する技術者の資格制度「街路樹剪定士」を運営する日造協には、道路分野だけでなく、公園・緑地空間の樹木まで対象を拡大することが、管理者などから求められていた。

こうした現状を踏まえ、街路樹剪定士の持つ知識と技術に加え、公園や緑地の樹木に関する基礎的な知識を有し、樹木の剪定整姿などの適切な育成管理や日常の安全点検を行うことのできる技術者を養成するため、すでに街路樹を対象に剪定・管理を行っている「街路樹剪定士」をベースに、新たに「緑地樹木剪定士」資格制度を創設した。

「緑地樹木剪定士」は、公園や緑地の管理者とその利用者の間に立ち、公園・緑地空間に植栽された多様な樹木を対象に、適切な管理を提案し剪定を行い、利用者が快適に安全に利用できる造園空間の提供を目指す。

認定までの流れ

街路樹剪定士の資格を有している者が、「緑地樹木剪定士研修会」を受講し、「緑地樹木剪定士認定試験」に合格した後、登録認定を行うことで、資格者となることができる。登録認定の有効期限は5年間とし、更新手続きを行うことにより期限を延長することができる。（図1）

2023年度（夏期）開催要項

- 研修会の受講資格
街路樹剪定士であること
- 認定試験の受験資格
過去2回のうちいずれかの緑地樹木剪定士研修会を受講された方
- 申込期間
2023年7月1日～7月28日まで
- 研修内容
当協会のテキストおよび映像講義の動画（約240分）の受講

- 第1講 公園・緑地に関する基礎知識
- 第2講 剪定技術
- 第3講 安全管理・樹木の安全点検
- 第4講 その他関連知識

- 研修期間
申込以降～2023年7月28日まで
- 試験方法
CBT方式による四肢択一式20問 45分
※CBT方式とは、全国に300会場以上あるテストセンターのパソコンにて試験を実施する仕組み
- 試験期間
2023年8月1日～8月31日まで
試験予約日の3日前までは、試験会場・日時の予約はいつでも無料で可能
- 受講・受験料
一般：35,200円（税込・テキスト代含）
日造協会員：18,700円（税込・テキスト代含）
- 支払方法
クレジットカード、コンビニ振込など
冬期にも同様に実施予定

認定証のデザイン刷新

緑地樹木剪定士の資格制度創設に伴い、街路樹剪定士の認定証も刷新する。

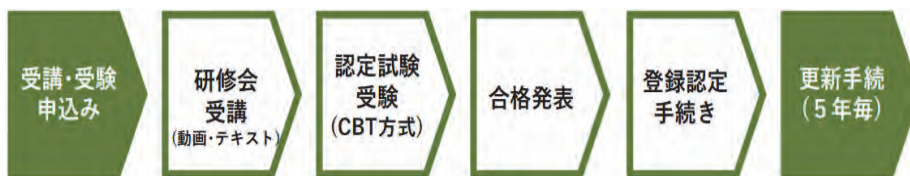


図2 認定証のデザイン



（参考）現行の街路樹剪定士証

緑地樹木剪定士 受験申込から登録認定・更新手続きまでの流れ



- 【STEP.1】 申込期間になりましたら日造協ホームページより申込み
※試験会場と日時の選択、受講・受験料の払込など
- 【STEP.2-1】 受験申込された方にテキストを送付、研修動画視聴用 URL をメールで通知
- 【STEP.2-2】 受講期間内に研修動画を視聴
※試験期間内はいつでも何度でも視聴可能
- 【STEP.3】 申込時に選択した受験会場と日時で受験
※受験会場と日時は、マイページより受験日の3日前まで変更可能
- 【STEP.4】 2024年2月に（登録されたメールアドレス）宛に合格通知
- 【STEP.5】 合格者は、登録認定手続きを行う。
※資格取得後の手続きについては、合格者に別途通知する。
※登録認定料 11,000円（街路樹剪定士の有効期間により減額措置有り）
- 【STEP.6】 5年毎に更新手続き（更新研修の受講）を行う。
※登録認定後の初回有効期限は保有する街路樹剪定士の有効期限となる。
※更新料 2,200円（税込）

図1 認定等の流れ

2資格を保有する方は1枚で両資格を証明できる。なお、従来の認定証も有効期限までは使用可能である。（図2）

- ①街路樹剪定士と緑地樹木剪定士の2資格を保有している方
- ②街路樹剪定士のみ資格を保有している方

パンフレット・ホームページ

資格制度を公園や緑地の管理者、施工業者等へ広く周知するためのパンフレットを用意した。（ダウンロードはこちらから：<https://www.jalc.or.jp/sentei2/pdf/Pamphlet.pdf>）
なお、6月中には「緑地樹木剪定士」

のページも開設予定である。

造園 CPD にも対応

「緑地樹木剪定士認定研修会」は造園 CPD 認定プログラムで、4単位取得できる。

特例措置者等の手続き

「2022年度または2023年度の特例研修会」「2019年度公園・緑地樹木管理士指導員研修会」または「2021年度公園・緑地樹木管理士移行研修」を受講された方には、登録認定手続きの案内を送付し、夏までには認定証を発行する予定。

（参考）「緑地樹木剪定士」パンフレット

商品の詳細は
弊社オンラインストアから！
<https://www.usui-nouchikusan.com/>

初夏のSALE
～6/30まで 全品 10%OFF!

クーポンコード
zouen2305

※弊社オンラインストアから会員登録の上、上記のクーポンコードをご入力ください
お問い合わせ TEL:0250-62-3926

私たちはまごころ企業であり続けます
有限会社 臼井農畜産
〒959-1944 新潟県阿賀野市金屋765番地
TEL:0250-62-3926 FAX:0250-62-1206
臼井農畜産HP
<https://www.usui-niigata.co.jp/>
☎: usui@usui-suibara.co.jp

ふるさと自慢

静岡県

「歴史」と「食」と「ジオパーク」の伊豆



三島大社

今回のふるさと自慢は、私の地元「静岡県東部伊豆半島」を中心にお届けしたいと思います。



伊豆半島は静岡県の中でも特に温暖な地域と言われ、東海道東西双方からの入口部には、「三島大社」が位置しています。

「三島大社」は、伊豆に流された源頼朝に愛され源氏の再興を祈願したことで有名です。

また年頭の「お田打ち神事」に登場する「福太郎」にあやかり、初詣にはこしあんで包んだ草餅の「福太郎」を食べて福を授かり無病息災をお祈りします。



半島の中央部を縦断する国道 414



旧天城トンネル

号を南下すると川端康成の小説「伊豆の踊子」ゆかりの旧天城トンネルがあり、現存する石造トンネルでは国内最長で国の重要文化財にも指定されています。

山間部には江戸時代に静岡市有東木の住民から譲り受けた苗で栽培したわさび田が点在し、今では国内有数の産地となっています。



わさび田



了仙寺

天城峠を超えて更に南下し東海岸に出ると、鎖国以来、日本で最初の開港場となった下田市に出ます。

下田は「日米和親条約」のアメリカ全権のペリー提督と幕府の話し合いの場となった「了仙寺」をはじめ幕末の歴史舞台となった数々の史跡があり歴史にはたまらないスポットとなっています。

花景色としては、下田城公園の「紫陽花」、爪木崎の「水仙」、南伊豆町の「菜の花」と「さくら」のコントラスト、河津町の「河津桜まつり」など、心躍る季節の訪れが楽しみです。



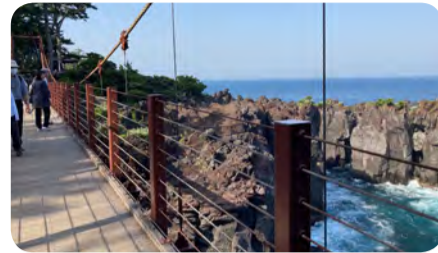
東海岸の景色を眺めつつ国道 135 号を



ウルトラ生ジュースと肉チャーハン



大室山



城ヶ崎海岸

北上すると、道すがら柑橘類の畑が目に入り「みかん狩り」や「生ジュース」を味わうことができます。

また東海岸にはさまざまなローカルメニューがあり、ちなみに私の一押しは東伊豆町の「肉チャーハン」ですよ、おためしあれ。



さらに北上を続けると温泉の郷「伊東・熱海」地域となり、数あるジオサイトの中でも代表的な「大室山」「城ヶ崎海岸」の絶景を楽しんだ後は、新旧お気に入りの旅館やホテルの温泉で体を癒し、金目鯛をはじめとする海の幸に舌鼓を打てば完璧です。

これが私の「ふるさと自慢」。いかがでしたでしょうか。

静岡県支部 庄司千咲 (株愛樹園)



シュトーレン作り

私にはかれこれ 5 年続けていることがあります。それはシュトーレン作りです。



シュトーレンというのはドイツの伝統的な菓子パンで、アドベント期間(クリスマス・イブの 4 週間前からイブまで)に、少しずつ楽しみながら食べる習慣があります。日本でもパン屋さんやケーキ屋さん、スーパー等で見かけたことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



私は以前からお菓子作りを趣味で続けていたのですが、ふとネットのブログでシュトーレン作りの記事を目にしたのがきっかけでシュトーレン作りを始めました。

涼しくなり始めた秋ごろに好みのドライフルーツをラム酒に漬け込み、1 か月以上寝かします。そして、準強力粉、バター、イースト等の材料を使って作っていきます。



生地がべとついたり、焼いたときにこげないようにドライフルーツを表面から取って中に入れこんだりとなかなか手間がかかります。



上:①材料 ②仕上中

下:③焼いた後 ④焼く前



ます。

焼いた後は溶かしバターをたっぷり塗って、グラニュー糖、粉糖をまぶしてラップをまいて 1 週間以上寝かせて完成です。



1 日仕事になるので、正直作っているときは大変なのですが、家族や友人のおいしいという言葉が毎年シュトーレン作りの原動力になっています。

それに、毎年違うレシピに挑戦したり、中に入れるドライフルーツを変えてみたりと、手作りならではの楽しみもあります。今年も今からどんなシュトーレンを作ろうかと思案中です。

株 大西 奈良 知栄 造園支部



事務局の動き

【6月】

- 1 (木) 総支部長・支部長合同会議
・第 1 回通常理事会
・花と緑のつどい
2 (金) 全国都市緑化仙台フェア会場視察
3 (土) 第 34 回全国「みどりの愛護」のつどい
6 (火) 広報活動部会
9 (金) 新規制度等部会
13 (火) (公社) 2027 年国際園芸博覧会協会「第 10 回 理事会ほか」
14 (水) (公財) 大阪花と緑の博覧会記念協会 理事会
16 (金) (一財) 全国建設研修センター 評議員会
17 (土) 地域リーダーズ勉強会 (造園学会全国大会) ~ 6/18
18 (日) 地域リーダーズ 造園学会全国大会ミニフォーラム
20 (火) (公財) 建設業適正取引推進機構 定時評議員会
21 (水) 令和 5 年度第 1 回造園施工管理技術検定委員会
22 (木) 地域リーダーズ OB 会
23 (金) 通常総会、講演会、50 周年記念交流会
28 (水) (一財) 日本造園修景協会 評議員会
・街路樹剪定士認定委員会
30 (金) 登録造園基幹技能者講習委員会 (試験委員会)

【7月】

- 4 (火) 広報活動部会
6 (木) 運営会議

- 7 (金) 植栽基盤診断士認定委員会 (試験部会)
11 (火) AIPH 横浜視察
14 (金) 植栽基盤診断士認定委員会
20 (木) 登録造園基幹技能者講習委員会
25 (火) 安全部会

委員会等の活動

- 広報活動部会
5/9 日造協ニュース 6 月号 ~ 9 月号の内容について審議
● 総務委員会及び財政・運営部会
5/16 令和 4 年度事業報告及び決算報告 (案) 等について検討
● 全国造園デザインコンクール等推進部会
5/19 第 50 回全国造園デザインコンクールについて検討・審議
● 人材育成部会
5/15 2023 年度の造園施工管理技術検定受験対策講習の計画、職長・安全衛生責任者教育の講師派遣の検討、経営研修の企画、地域リーダーズ活動の支援について審議
● 造園フェスティバル推進部会
5/24 本年度の造園フェスティバルの開催計画を検討し、フェスティバル開催者へ配布予定の「造園建設業の紹介動画」についても確認
● 街路樹剪定士認定委員会 (試験部会)
5/26 2023 年度の開催に向けた開催計画・試験問題の確認

【造園用フルハーネスの購入方法】

造園の作業に適した「造園用フルハーネス」を会員特別価格でご購入希望の方は URL (http://shop.kousinen.com/) よりお申込ください。



編集後記 昔、「植木屋殺すにゃ刃物は要らぬ。雨の三日も降ればいい」と聞いたことがありましたが、今やそんなかわいい降りかたの雨でなく身(命)の危険を感じる豪雨に酷暑、これから迎える梅雨と夏を無事に乗り切れるか...、皆様もご自愛のうえくれくれもお気を付け下さい!

Husqvarna advertisement for R216T AWD and TC242TX mowers, including pricing and contact information for Husqvarna of Japan.